

40 期 2024-2025 年度 浜名湖ロータリークラブ週報

例会場：浜名湖レークサイドプラザ 〒431-1424 静岡県浜松市浜名区三ヶ日町下尾奈 200 TEL・FAX 053-524-1177
E-mail hamanako@hamanako-rc.com HP http://hamanako-rc.com

例会日：毎週火曜日 12:30～13:30

会 長：杉山 寿夫 幹 事：後藤 成生 公共イメージ委員会委員長：松井 一 隆

第 1782 回例会 2024 年 10 月 8 日(火) 曇 VOL.40 週報 No.11

点鐘：杉山 寿夫 会長 SAA：中島 治保 ソング♪我等の生業

本日のプログラム： 青少年奉仕委員会担当プログラム

四つのテスト唱和： 松井 一隆

本日のゲスト： 静岡県健康福祉部 こども未来局 こども家庭課 総括主査 北川 明宏 様

会員数 40 名 / 免除会員数 0 名 / 計算総数 40 名 / 本日の出席数 30 名 / 暫定出席率 75.0%

会長挨拶 * 杉山 寿夫



みなさん、こんにちは。気候も涼しくなりましたが、今度は長雨ですかね？

みなさん体調管理は如何ですか？気をつけてください。

今月の例会は 3 回、来週 15 日と 29 日は休会となりますので、お間違えないようお越しください。22 日の例会が 10 月最後の周年 IM 検討となりますので、多くのメンバーの出席をお願いします。

今日は青少年奉仕担当プログラム卓話です。こども未来局北川様よろしくお願ひいたします。

松井 賞子 様 10 月 31 日



幹事報告 * 後藤 成生



*配布物：

- ・1781 回週報
- ・第 24 回青少年の科学体験のチラシ
- ・本日の卓話資料

*回覧物：

- ・530 運動出欠表
- ・青少年の科学体験出欠表

10 月のお祝い おめでとうございます。

会員誕生日祝： 野本 康比古 10 月 24 日



配偶者誕生日祝： 佐原 まさ代 様 10 月 19 日

委員会報告

青少年奉仕委員会 委員長 金子 貴洋



- ・青少年の科学体験参加のお願い
- 12/14 (土) にアメニティプラザにて第 24 回青少年の科学体験が開催されま

浜名湖ロータリークラブ 40期会長テーマ
「40周年を迎え変化を基準として、新時代のRCを切り拓こう」

す。今年度もブースを出展して参加いたしますので、多くの皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

スマイル報告

- 杉山寿夫 みなさんこんにちは。静岡県こども家庭課北川様、本日は宜しくお願います。
- 後藤成生 青少年奉仕委員会金子委員長、設営ありがとうございます。北川様、卓話よろしくお願います。
- 野本康比古 61才です。誕生日。
- 佐原功一郎 北川様、本日の卓話楽しみにしておりました。よろしくお願いたします。妻の誕生日。
- 松井一隆 妻の誕生日になります。忘れずにお祝いたしたいと思います。
- 尾藤嘉倫 健康に感謝。
- 菅沼仁司 北川様、本日の卓話よろしくお願いたします。
- 白井繁充 北川様、本日の卓話楽しみです。よろしくお願いたします。

本日のプログラム
【 青少年奉仕委員会担当プログラム 】

卓話講師：静岡県健康福祉部 こども未来局
こども家庭課 総括主査 北川 明宏 様
演題「ヤングケアラーについて」



ヤングケアラーならではの課題点

多様なヤングケアラー像	ケアしている子どもは、兄弟姉妹や母親をはじめ様々な家族をケアしており、家事や兄弟姉妹の世話、見守りなどケアの内容も多岐にわたっている。また、ケアラーだけでなく、ケアの相手の支援も必要 →ケアラーだけでなく、世帯全体に対して多機関連携の支援が必要
分析結果 ケアのきつさの自覚がない子どもの存在	ケアの時間が長くて、特にきつさを感じていない回答もあり、ケアが当たり前で、きつさを十分に自覚できていない子どもがいると推察される。 →ケアラーの自覚がなく、自ら支援を求めることが少なく、発見が困難
当事者間の交流	気軽に相談できる場所の要望が複数あり、学校や行政機関に相談することが難しく、同じ悩みを抱えた子ども同士との交流の場等が求められている。 →当事者同士の交流がなく、孤立感を深めてしまう恐れがある。

ヤングケアラーの心情・ケアによる影響

- (心情)
・当たり前のことややっている
→家族のことなので、ケアをすることは当たり前。かわいそうだと同情されたくはない。
・周りに相談できない
→先生や大人、上司に相談したところで、助けてくれるわけでもないし、理解してもらえない。友達にも言えない。言ったところで場の空気が悪くなる。友達が困ると思ってしまう。
・ケアを認めてもらえない。気にかけてもらえない
→周りにからは「お母さん元氣？」など、主眼は常にケアの相手、自分のケアや負担に気づいてもらえない。
(影響)
・進路選択時の葛藤
→大学や進学時に家を離れる選択があった場合、「ケアを続ける家庭に任せて良いのか」と思い、家を離れることと自分の夢との間に葛藤が生じる。
・(一部のヤングケアラーは)家が安心できる場所でない
→家において心休まらない。常に神経を張り巡らせている。(でも自覚症状はない)
・ケアにより、目に見えにくい「影響」がある
→大人(支援者)への不信感、家族を持つことへの恐怖感、罪悪感、トラウマなど
・終わらないケア
→ケアの終わりはケアの相手が「死亡」「入院・入所」し、家から離れた時

県のヤングケアラー支援施策①

<①早期発見・把握>

◆電話相談・LINE相談



◆教育・福祉等職員向け研修会

区分	対象者
教育	教員、生徒、スクールソーシャルワーカー等
福祉	生活困窮者自立支援員 介護支援専門員 相談支援専門員等
地域	民生・児童委員 主任児童委員研修等

⇒自覚がなく表面化しにくいヤングケアラーを、相談窓口と関係機関(アウトリーチ)により発見・把握

17



プログラム案内

10月29日(火) 特別休会

11月5日(日) 創立記念例会

理事会

卓話：三島RC 山岡 修一 様

11月10日(日) 地区大会

開会 9:30 YCC 県民文化ホール

11月19日(火) 戦略計画担当プログラム